

平成9年度日本応用地質学会東北支部現地見学会

日本工営(株) 中曾根 茂 樹

日 時 平成9年9月19日(金)～20日(土)

見学場所 摺上川ダム(福島市)

成沢地すべり(いわき市)

相小島トンネル・岡小名トンネル(いわき市)

常磐自動車道四倉工区

参加者 田野支部長はじめ26名

あいにく台風20号下の強い雨の中での出発となった。しかし、参加者の念力で進路を曲げようという意気込みが通じ、摺上川ダムでは降られたものの、その他の見学箇所は上々のコンディションが確保された。

摺上川ダムは現在コアトレンチを掘削中のフィルダムであり、典型的なグリーンタフを基礎とするものである。東北地建が建設を進める代表的な大規模ダムである。既に左岸の天端には広い展望台ができており、工事の全容が一望できる。

成沢地すべりは、いわき市西方の山地と丘陵地の境にある赤井断層を滑落崖とする大規模なものである。滑落崖の直下では、現在大規模な集水井戸工事が実施されている。深度50m近い井戸群の並ぶ高台から、波立つ太平洋がよく見えた。

いわき市周辺は、緩い傾斜の地質構造を反映して層すべりが起こりやすいが、今回は切土斜面とその対策に関する現場を多く見る事ができた。さらに今年7月に開通したばかりの二つのめがねトンネルを歩いて、新鮮な景観を楽しんだ。

また、いわきの炭坑の歴史を学べる石炭化石科学館が真近にあり、恐竜の化石も多く展示されている。巡検コースの重要なチェックポイントとなっている。ひとときの自主勉強もできるなかなかの施設である。

道路公団常磐道四倉工区では、豊富な露頭をみる事ができ大変有り難かった。この地域の軟岩のスレーキング特性について、支部長のお話をきく事ができた。また、土工における岩磐区分の勉強ができた。

東北支部の見学会は、今回はじめての一泊旅行ということもあり、「多くを見て多くを語ろう」という参加者の親睦を第一の目的とした。参加者の多くは、若い技術者であり、女性技術者も2人参加した。塩屋崎近くの民宿での一夜、新鮮な魚料理とお酒で、夜おそくまで盛り上がったのは言うまでもない。帰りには、一人10匹づつのサンマのおみやげが付いてきました。

以上